

—人・本・地域をつなぐ—

Page. 3



巻頭対談「日本映画原点の地」

立誠自治連合会会長 もろい まこと 諸井 誠一

×

京都文化博物館学芸課映像主任学芸員・

映像情報室長
もりわき きよたか
森脇 清隆

はみ出しコラム

映画の小道具

LIBRARY REPORT

蔵書紹介

よ む ど す
YOMU-DOSU?

Book de まめ知識 まぼろしのレファレンス

いなばた かつ たろう
稲畑 勝太郎とシネマトグラフ

珈琲は人と人をつなぐ

KYOTO'S COFFEE TIME

LIBRARY INFO



立誠図書館機関誌

第3号
2019.2

立誠小学校
DNAの
本棚

「日本映画
原点の地」
特集

「日本映画原点の地」は映画のシンボルにとどまらない!?



映画好きと言えば右に出るものはいない?! 京都文化博物館学芸課映像主任学芸員・映像情報室長 もりわき きよたか 森脇 清隆さん、
立誠自治連合会諸井 もろい まこと 誠一会長に「日本映画原点の地」についてお話をうかがいました

※プロフィールは P.4

日本映画との出会い

※諸：諸井さん 森：森脇さん

ー日本映画との出会いについて教えてください。

諸：僕は生まれも育ちも河原町で、その中 (P.2、M-1) で
商売をしていた加減で、日本映画全盛期は店に映
画関係者がようけ来ていました。親父が映画が好きで、例えば2月は28日しかないのに、22、3
日も映画を観るような人だったしね。うちの4、
5軒上 (北) マキノ・プロダクションが第一生命ビ
ルに入っていました。ある時、戦後のスターの
轟 とどろき 夕 ゆき 起子が来てね。車から降りるとフレアのある
白いドレスがフワァーってなって、まちの人が
「ワー！」って。僕の若い頃は見渡す限り映画館
があった時代でしたが、今はずいぶん変わってし
まったね。それで、国民文化祭^{*1}の時に牧野省三
監督の映画をかけたいとなった時に、森脇さんと
ご縁ができました。

森：私は学生の頃、ハリウッド映画……特に SF 映画
が好きやったんですね。SF 映画ばかり観てい
たんです。京一会館という一乗寺にあった映画館
で『ブレードランナー』を観に行ったら、その前
に『雨月物語』^{*2}という映画がかけられていたん
ですね。当時2本見ても同じ値段だったので、初
めて意識的に日本の古典映画を観ました。イマ
ジネーションの世界がものすごく綺麗に描かれて
いたのが印象的で、『ブレードランナー』そっち
のけですね (笑)。その出会いがこうやって博物館
で映画を研究する仕事になったスタートにあるん
です。あとで当時の支配人だった方と話す機会が
あって「あれは、震やった」と (笑)。わざとあれ
をくっつけて上映したらしいです。その時に、そ
ういう映画上映の企画というのも面白いなってい
うことも教えられたんですね。

映画が身近なまち、京都

―大手映画会社がこぞって映画制作をし「日本のハリウッド」とも言われた京都。全盛期は新京極や立誠界隈にもぎわっていましたか？

森：新京極の中の方は基本的には、芝居小屋が映画館に変わって来たというのが多いですよ。

諸：そうだね。豊臣秀吉が寺町を昔ザァーッとお寺にして、新京極には芝居小屋なんかができた。

森：昔は封切館と式番館・参番館という、名画座的なものでありましたね。あと、外国映画ばかりやっているところとか。今みたいに映画を観に映画館行くこともあったんですけども、ブラブラ歩きながら面白い映画がやっていたら入とか。待ち合わせ時間までに「ちょっと映画でも観ていこうか」という感じで時間つぶしをするとか。少し今と違う感じですよ。

諸：そうやね。うちに学生さんとかがまず親父に聞かに来るわけ。「今、何観に行ったらええ？」って。なら親父が「これ面白いから行け」、「ほな、行ってくるわ」って。

森：京都は学生のまちでもあって、大手の映画会社が運営するところなんかは学生新聞の記者に試写をして、書いてもらうというのを戦前からやったりしていたんですよ。それで学生を動員できる仕組みがありましたね。

―記憶に残っているエピソードなどはありますか？

諸：うちの店に一番よう来たのはアラカンさん。

森：風寛壽郎あらしかんじゅうろうさんがよく天ぷら食べに来た？

諸：よく来ていたと思う。「あの人、なんか見たことあるなあ」と思ったら、女優さんやったり。花月があった関係で明石家さんまさんも来ていたね。

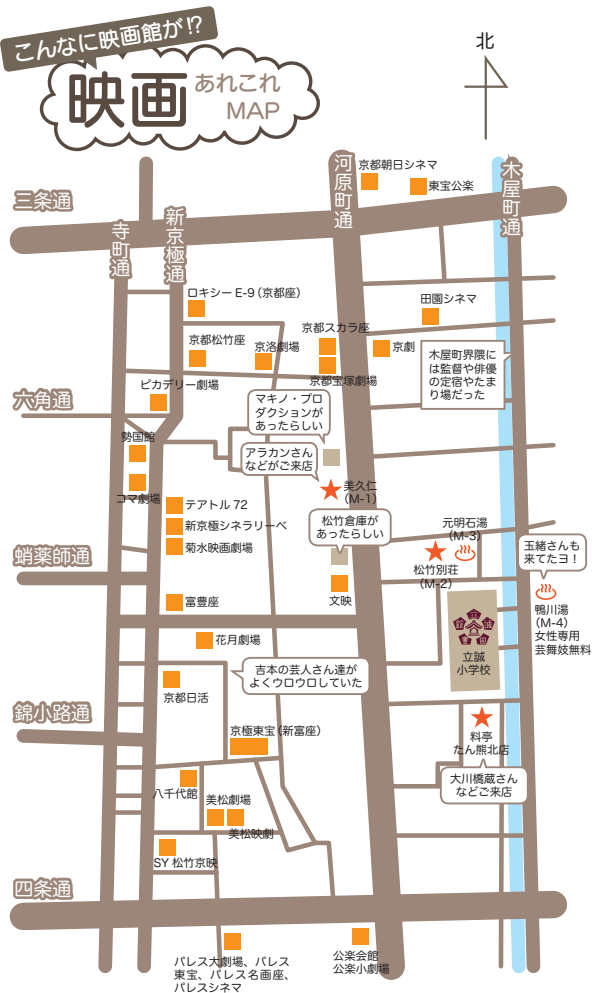
森：そうですね、花月がありましたからね。このへんで吉本のひとと会うことも多かったですね。

諸：立誠を出てすぐのところに松竹の別荘(M-2)があって、坂田藤十郎なかつらとうしろうさんが住んでいたそうです。ほかには二世中村鴈治郎さん、中村玉緒さんなんかもここに住んでいた。それで、この細い路地の中に元明石湯(M-3)というお風呂屋さんがあって俳優が来ていた。こっちは女性専用のお風呂屋

さん(鴨川湯、M-4)だった。だからこら辺の人は、「玉緒ちゃんとお風呂はいつてん」とか聞くね。あと、「私、エキストラで出たのよ」とか言う人もいはるよ。梅宮辰夫さんやらが団体で飲みに来ていたり、ショットバーに田村正和さんがいたりね。

森：そんなふうに、諸井さんのところにアラカンさんが来たように、映画人の定宿であったり、打合せも兼ねた食事に行く店だったりがやはりこの辺だったみたいですね。

諸：先斗町のお茶屋さんから通っていた人もいるしね。



*映画館はすべて閉館時の名称で記しています

【参考資料】

鶴明浩 & 京都キネマ探偵団編『京都映画図絵―日本映画は京都から始まった』フィルムアート社 1994

中島貞夫、筒井清忠、加藤幹郎、岩崎健二『映画ロマン紀行―京都シネママップ』京都国際映画祭組織委員会京都事務局 1994

映画という文化の一点が立誠小学校だった

一立誠小学校は日本で初めて最初の映画と言われるシネマトグラフの試写が成功した地であることから「日本映画原点の地」と言われていますよね。

▶「日本映画原点の地」については、「Book de まめ知識」P.9 もご参照ください

森：映画って、西陣織とか友禅みたいなものと同じ感覚でいた方がいいかもしれないですね。伝統産業的な。京都のものづくりって満足や感動を売っているんですね。感動せえへんもの作っても、良い値段がつきません。映画も一緒に、感動してもらって対価をもらう。それがひとつ京都のものづくりの優れているところですね。

諸：それが京都の文化が綿々と続いている大きな要素だと思うし。まず特殊な技能を持った人がいて色々なものが作れる。そしてそれを評価してくれる人がいることが大きいやろな。

森：我々が文化博物館で古いものを伝えているのは、そういう京都のスピリットを次の世代の人に明確に伝えていかなあかんということだからです。

諸：僕は「日本映画原点の地」を、それから弁士付きの映画を残したいというのが大きいですね。そういうのを残すのは、昔のことをちゃんと勉強して、そこから新しいことをするということが大きいと思うから。

森：「日本映画原点の地」というのは、単純に初めて日本で映画上映をやりましたということではないですね。背景を考えなあかん。京都って明治維新までは日本の首都やったわけですよ。それが幕末のどんどん焼け^{てん}³、そして東京奠都で人口の3分の1あまり、約10万人が流出したっていうんですね。それってやっぱり非常事態なんです。そこで京都は東京の二番煎じではなく、世界の最先端の技術を持ってこないとあかんということになりました。その時に染色関係でフランスに行ったのが稲畑勝太郎さんですね。

諸：そうやって勉強しに行ったら、たまたまりュミエール兄弟と出会って日本にシネマトグラフを持ち帰ることになった。

森：実はシネマトグラフを持って帰ってきて最初にお披露目しようとした時に、最初の2台を壊していたらしいです。その場所が「四条河原」。その背景にあるのは当時電気を変電していた京都電燈

がここ立誠小学校の場所にあったことなんです。普通の都市の場合は電気をまず何に使うかと言ったら産業ですよ。ところが京都は祇園やったんですね。夜の花街は外にロウソクを付けていましたが、常に絶やされないし危なくて邪魔くさかった。それで電気を買ったんです。シネマトグラフを動かそうとした時も、電気が必要やと。加えて人がたくさん集まれる場所ということで、祇園と立誠小学校の間に四条河原があった。で、失敗したんです。それは野村芳太郎さんという映画監督さんの、お父さん野村芳亭さんが見に行行って証言してはるんですけども。四条河原で試写が行われたという誤解が生まれているのはそんな背景があるんです。その壊れた2台をここまで持って帰ってきて、電源関係は京都電燈の技師さん、燃えたり溶けたりしているところは島津製作所の技師の人が修繕しました。

諸：木屋町二条のところにある島津製作所（現・島津製作所創業記念資料館）からこっちに来たわけ。

森：だから誰かが、単純にものを持って帰ってきて「ハイ、コンテンツ・ビジネスです」ってスタートしたわけじゃなくて支える技術が必要だった。それがここにあったから、スタートできた。

諸：ここでは石炭で電気を起こしていたけども、田辺朔郎^{*4}が琵琶湖疎水とか大きな電力の開発をしていて京都に日本初の市電を走らす要素になった。映画と電気は違う動きをしていたのにね。

森：基本は産業振興。その中でね、芸術にも貢献したというか。ここがそのシンボルなんですけども、何のシンボルかと言ったら、京都の人が明治という新しい時代の中でどれだけ新しいことをしようと努力したかってことなんです。それがここ立誠小学校で映画という文化の一点にもなった。みんなの努力があったんですね。

*1: 全国から各分野の表現者が集まり作品などを発表する文化の祭典。京都は2011年度の会場となった。

*2: 『雨月物語』大映京都 1953年 溝口健二監督

*3: 1864（元治元）年に発生した火災。手の施しようがなく焼け広がったことから名付けられた。

*4: 日本の土木技術者・工学者。琵琶湖疎水や日本初の水力発電所の建設、関門海底トンネルの提言を行なうなど、日本の近代土木工学の礎を築いた。

▶まだまだここでは収まり切らなかった面白い話がたくさんあります！
気になる方は公式サイトで！！

<https://www.bunmachi.org>

立誠図書館

検索





【諸井 誠一 Makoto Moroi】

1945 (昭和 20) 年京都府生まれ。立誠自治連合会会長。河原町の天ぷら美久仁店主(2019 年 1 月末、建て替えのため一旦閉店)。「日本映画原点の地」の活動を精力的に行う。

【森脇 清隆 Kiyotaka Moriwaki】

1962 (昭和 37) 年大阪府生まれ。京都文化博物館学芸課映像主任学芸員・映像情報室長。



【京都文化博物館フィルムシアター】

京都で制作された作品を中心に約 780 作品を所蔵。毎月様々な切り口で特集企画を組み 1 日 2 回、京都府が所蔵する日本の古典・名作映画の上映を行っている。シアター前のロビーでの上映作品に関連する資料や解説パネル等の展示も必見。上映スケジュールなどは公式サイトでご確認ください。

住所：〒604-8183 京都市中京区三条高倉

TEL：075-222-0888 FAX：075-222-0889

開館時間：10 時～ 19 時 30 分 (入場は 19 時まで)

入場料：一般 500 円 大学生 400 円 高校生以下無料 (総合展示入場料で鑑賞できます。) * 特別展は別途料金必要 * 催事により料金が変わる場合があります。

公式サイト：http://www.bunpaku.or.jp



はみ出しコラム

「映画の小道具」

第 3 回

はなだいとおどしどうまる

《縹糸威胴丸》室町時代

写真提供：財団法人高津古文化会館 京都国立博物館寄託 重文

* 高津商会在収集した小道具のうち美術的価値の高いものを保管・展示する高津古文化会館は現在事情により休館中のため、残念ながらそれらの名品を鑑賞することはできません。



映画の小道具をよく見たことはありますか？リアリティを生み出す重要な要素であり、日本映画の父・牧野省三監督は小道具はすべて本物でまかなおうとしたほどの熱意の入れようだったそうです。また『雨月物語』の溝口健二監督は安土桃山時代の陶芸家である楽焼の創始者である長次郎の茶碗にこだわり、小道具として使用したとか。

そんな監督らの想いを実現させた人が京都にいました。現在でも映画や演劇、テレビなどのために小道具を貸し出す、高津商会の創設者・高津義家氏です。義家氏は牧野監督、そして世界へと羽ばたこうとする京都映画界の熱意に応えて、全国各地で小道具探しに奔走したそうです。そうして集めた小道具は重要文化財に指定される品もあるほどで、その審美眼は確かなものであったことがうかがえます。その熱意が人を感動させる京都らしいもののづくりを支えたのでしょう。

【参考資料】

『別冊太陽 京都映画百年記念—日本映画と京都』平凡社 1997

文化遺産オンライン <http://bunka.nii.ac.jp> (2019 年 2 月参照)

江戸時代に刊行された古美術の木版図録『集古十種』に収載され、兜・大袖を完備した胴丸として貴重な一品。非常に繊細な装飾が施された一級品で、それを映画のために集めたのだから驚きが隠せません！

LIBRARY REPORT

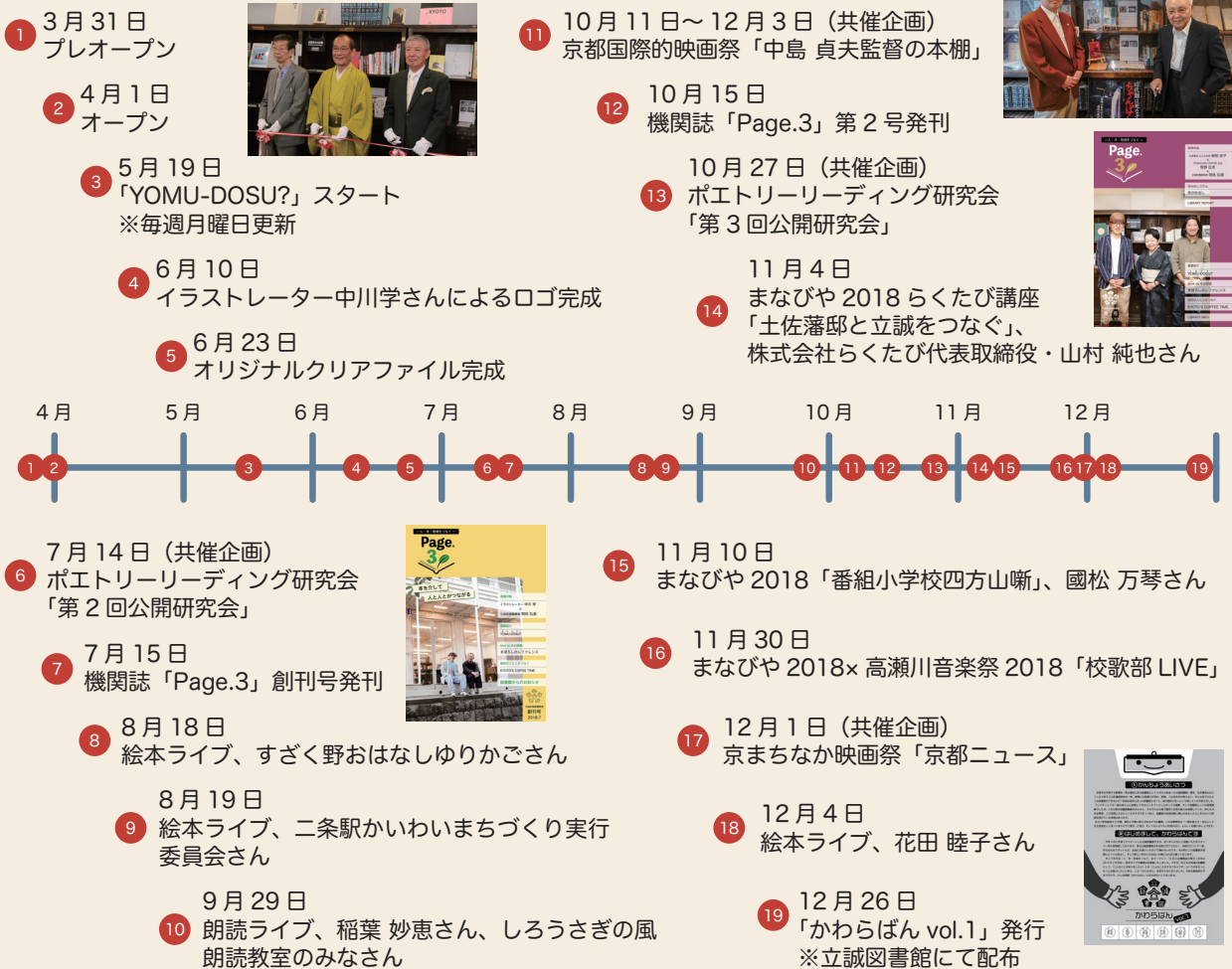
早いもので2018年4月のオープンから、もうすぐ1年が経とうとしています。現在(2019年1月末)までにのべ21284人の方にご来館いただきました。蔵書は毎月スタッフで選書し、現在約700冊となりました。「つながる図書館」をテーマに1年試行錯誤しながらも運営できましたのは、ひとえに皆様の暖かいご支援のおかげとスタッフ一同感謝しております。各種イベントなども企画中です。皆様のご来館をお待ちしております!

立誠図書館 1年を振り返って

元・立誠小学校跡地に図書館を作る話が持ち上がってから、京都市の公共図書館を回り情報収集と新たな図書館の方向性を探りました。大学の専任教員在任中は司書課程の責任者を務め、授業も担当しておりましたが、いざとなるとこれまでの経験は役に立たず、一から考え積み上げてきたのが正直な感想です。試行錯誤の中、図書館スタッフらと話し合いを重ね、繁華街・居酒屋街のど真ん中で、なおかつ豊かな歴史を有する地域の図書館として少しずつ実績を残しているのではないかと感じております。図書館はその地域の民度を表すこと、そして基本的人権＝人が生きていく際に最低限必要な権利、と大きく関わっています。また、このような場所に知の発信装置である図書館が存在することの意味について考えさせられるありがたさなど自身にとっても得がたい経験をしております。次の1年に乞う御期待!!最後に、立誠図書館の設立・運営に多大な支援をいただいた京都市、株式会社ヒューリック、竹中工務店、古瀬組に改めて篤い敬意と深い謝意を表します。

立誠図書館館長 岡見 弘道

立誠図書館 1年のあゆみ



土佐藩邸跡を守ったのは誰？！



11月4日(日)に株式会社らくたび代表であり、京都に関するツアーの企画・講師として活躍する山村純也さんをお迎えし、らくたび講座「土佐藩と立誠をつなぐ〈土佐藩邸のその後〉」を開催しました。

立誠小学校のある場所のはかつて土佐藩邸がありましたが、1871(明治4)年の廃藩置県後はどうなったのでしょうか？同地には坂本龍馬も参拝していたという土佐稲荷(岬神社)があり、地元住民も信仰していました。廃藩置県後、土佐藩の御用聞きであり近江屋という醤油屋を営む名家・井口家が跡地を購入していたことが大正期の地図に記されています。なんと一旦避難させていた土佐稲荷を土佐藩邸跡に戻そうと土地を守っていたそうです。1887(明治20)年に現在の木屋町通蛸薬師に、社殿は1913(大正2)年に地域の人々がお金を出し合って整備しました。立誠小学校は1928(昭和3)年に中京区大黒町から現在の備前島町へ移転してきたのです。この講演は立誠小学校のDNAを知る機会となりました。

番組小学校の思い出で盛り上がりました！

11月10日(土)に美術教師で陶芸家の國松万琴さんをお迎えし「番組小学校四方山嘸」を開催しました。

立誠小学校の特徴としてあげられる1つが「番組小学校」ということ。1869(明治2)年に下京第六番組小学校として中京区大黒町に開校し、備前島町の校舎は1927(昭和2)年に完成した鉄筋コンクリートの校舎です。実は「番組小学校」という名称は1869年から学制が出るまでの3年間限定のもので、150年経った現在もその名称が知られているのは、全国に先駆けて整備された近代的な学校設立の事例だったためだそうです。各番組小学校の写真をしながら意匠、取材時に聞いた裏話、学校建築に込められた想い、そしてその保存価値についてもご紹介いただきました。参加者の皆さんの思い出などもお話しいただき、番組小学校を知る貴重な話で盛り上がりました。



絵本読みきかせのそこ力に圧倒！



12月4日(火)に絵本児童書・専門店「えほん館」の花田睦子さんをお迎えし、2回目の絵本ライブを開催しました。

とびきりの笑顔で『でてこいでてこい』からよみきかせがスタート。リズムに乗ってトントンと絵本を叩きながらページをめくると現れる可愛い動物の姿に皆さんの笑顔がこぼれました。続いて植木鉢に「のっぺらぼう」を植えるという個性的な物語『うえさばちです』を読んだのち、大きな顔のかかれたボードで遊びました。質問と歌を交えての『まほうのでんしレンジ』、よみきかせの定番『やさいさん』、『はらぺこあおむし』でこの日は終了。『やさいさん』では土から「すっぽーん」と登場する野菜のタイミングと、お母さんの「たかいたかい」を合わせると、喜ぶお子さんの声が響きました。お子さんはもちろん、よみきかせに関心をお持ちの方もご来館くださり、絵本を囲んで生まれる場の一体感が心地よい時間となりました。

▶ 次回の絵本ライブは3月12日(火) 詳細はP.11をご参照ください

よ む ど す ? YOMU-DOSU?

立誠図書館 蔵書紹介

【京都歩きの本棚】、【立誠小学校DNAの本棚】、【食べる本棚】の3つのカテゴリと新規図書を含む
せて約700冊の蔵書よりホームページで毎週月曜日に図書を紹介する企画「YOMU-DOSU?」。その中から6冊
をピックアップしました。ここで紹介する図書のほかにもさまざまな図書をそろえておりますので、ぜひ立誠図
書館へお越しくださいませ。YOMU-DOSU? 公式サイト：<https://www.bunmachi.org/recommend>

岡見館長のおすすめ図書



新規図書

『大正日本画の異才
—いきづく情念 甲斐庄楠音展』(図録)

編：京都国立近代美術館
笠岡市立竹喬美術館
日本経済新聞社

1997(平成9)年に京都国立近代美術館と笠岡市立竹喬美術館で開催された展覧会の図録だが、一度手に取ってご覧あれ！ぶっ飛びます！昭和前期の日本時代劇映画に「衣裳・風俗考証担当」とクレジットされている「甲斐庄楠音」とはWho?と思っていたが、日本画家として京都画壇で異彩を放つ存在だったと図録に。南北朝時代の英雄、楠正成の末裔、また西本願寺に仕える寺侍、下間氏の子孫でもあることが時代劇映画との繋がりを思わせるが何より溝口健二監督との出会いによるだろう。女的情念を求めてリアリズムを究めた監督の作風と響きあうものを感じるのは私だけではないはず。



立誠小学校DNAの本棚

『子どもの人権を
まもるために』

編：木村 草太
晶文社

「子どもだった頃、こんな大人に会いなかった」がこの本のコンセプト！！編者の木村草太さんは憲法学者、二児の親。この本を編もうとした動機は編者が子どもの頃、少々変わった子どもで、社会との折り合いが良くなかったことにあるのかも(編者言)。編者以外16名の執筆者はそれぞれに専門の「現場」を持ち、そこで知り得たリアルな子どもを取り巻く困難な状況、それを解決するために必要なことを可能な限り具体的に示してくれてるで。子どもの問題＝大人の問題やな。子どもが近くにいる人もおらん人も読まなあかんのちゃう？



食べる本棚

『猟師の肉は
腐らない』

小泉 武夫
新潮社

発酵学の研究者として著名な著者と「八溝・阿武隈ごっちゃ語」という独特の方言を駆使する義っちゃんとの食いもんを軸とした交友録。八溝山地(福島・茨城・栃木三県にまたがる)出身の彼は、店の酒を飲みすぎて渋谷の酒場をフビになり福島県山奥の小屋でランプ頼りの自給自足の猟師生活。そのサンクチュアリカサの如き小屋に著者は憂き世の喧騒を離れ、義っちゃんの好物、粕取り焼酎を背たろうて(背おって)命の洗濯に。で、出てくる食いもんがホンマにうまそうなっ！！この著者の紳士淑女のための『絶倫食』(新潮社)も併せて読みたい！！

<立誠小学校 DNA の本棚>特集

スタッフのおすすめ図書



石橋 美樹
好きなこと (もの)
海外旅行／映画鑑賞／
音楽鑑賞／いい香り

「映画館」と「Netflix」は一生の友達です！映画から学ぶ事はたくさん！また私の英語の勉強にも役立ってます！



普照 大督
好きなこと (もの)
美女

昔の映画でよくある女性が襲われるセクシーシーン。いいところでヒーローが登場して助けるので僕はヒーローが大嫌いになりました。



栗山 万葉
好きなこと (もの)
アート／ロックとケー
ポップ／美味しいものを
食べること／海外旅行

最近ユ・ヘジンさんが好きすぎて、好きなセリフを韓国語で書き起こそうとして、同じシーンを何度も観ました。



立誠小学校 DNA の本棚 『みんなの 恋愛えいが100選』

山瀬 まゆみ、小川 知子、中村 志保
オークラ出版

絵：馬場 雄

なぜ、世の中にはこれ程までに恋愛に関する物があふれ、また受け入れられているのだろうか？本、映画、音楽……。それは共感する人が多いからに他ならない。恋愛に悩み、涙し、笑い、幸せを感じる。私もそんなひとりだ。この本は、恋愛映画の中のひとことを集めた本だが、恋愛を忘れてしまった人は恋愛をしたくなるかもしれないし、恋愛に悩んでいる人は何か答えが見つかるかもしれない。年齢、性別関係なくぜひ読んでもらいたい1冊。



立誠小学校 DNA の本棚 『中川 学 图案繪集 UKIYO』

中川 学
玄光社

立誠小学校出身、瑞泉寺のご住職でもあり、日本が誇るイラストレーター中川学さん渾身のイラストレーション集。コミカルかつ繊細なタッチで描かれるたくさんのイラストの中には、過去に立誠で実施した事業のメインビジュアルが掲載されていたり見応え抜群です。立誠図書館では中川学さんの特集コーナーを設けているほか、立誠図書館機関誌『Page.3』創刊号では館長、岡見との対談も掲載し、大フィーチャー中です。そんな中川さんにいつか好きな女優の裸婦画を描いてもらうのが私の密かな夢です。



立誠小学校 DNA の本棚 『すき 好きノート』

谷川 俊太郎
アリス館

左を表紙にすると子ども向けの『すきノート』と三行詩、右を表紙にすると大人向けの『好きノート』とエッセイ。質問にそって自分の好きなものを書き込んでいく……ノートであり、全て書き込むと谷川さんとの合作の本になります。このノート以上本未満の何かは、そう言えばあえてすることはなかった「好きなものごと」に思いを馳せるきっかけになり、ステキな記憶を思い出したりもしました。思いのほかひとつにしぼれないですし、好きだと思っていたものが、案外好きでもないんだなー（笑）とも。ノート以上本未満の何かは新しい体験です。



レファレンスとは皆さんの「知りたい」にお答えするべく、必要な資料を探すお手伝いをすることです。ここは新米図書館スタッフが「もし、こんな質問があったら？」をテーマに立誠図書館の蔵書を使って頑張って調べてみるコーナーです。

Q. 京都に「日本映画原点の地」があるのですか？

A. そうなんです！それも立誠小学校のある場所が、その歴史の舞台なんです！

実は、日本映画史の始まりの地は京都なのです。そして、立誠小学校のある場所がその歴史のポイントであったということを私たち立誠図書館はお伝えしなければなりません。今回はその主要人物とシネマトグラフ試写までの道のりを年表で紹介します。

- **オーギュスト** (1862～1954) と **ルイ** (1864～1948) の **リュミエール兄弟**：1891年にエジソンが発表した、一人一人が箱を覗く映像鑑賞装置キネトスコープを見て「これがスクリーン上に投影され、動く事物や人物を忠実にした生ける場面を、人々の集まりの中で見せることができたなら、どれほど興味深いことだろうと思った」¹⁾と語り、**撮影・焼付・映写の機能を併せ持つ【シネマトグラフ】を発明。**
- **稲畑 勝太郎** (1862～1949)：京都の裕福な菓子舗に生まれた実業家。稲畑産業株式会社創業者。シネマトグラフを日本に輸入した。
- **コンスタン・ジレル** (1873～1952)：リュミエール社のフランス人映写技師、稲畑の協力で日本の風景や生活の様子を撮影。
- **横田 永之助** (1872～1943)：京都の実業家、興行師、映画製作者。
- **牧野 省三** (1878～1929)：日本初の商業映画監督。日本映画の基礎を築く。



[リュミエール兄弟]



[シネマトグラフ]



[稲畑勝太郎]

※稲畑勝太郎『欧亜に於いて』日本評論社 1929 国立国会図書館デジタルコレクションより

1877年1月	京都府留学生として稲畑は横田万寿之助計8人と渡仏。リヨンのラ・マルティニエール工業学校で、オーギュスト・リュミエールと出会う。1885年帰国。
1895年12月28日	リュミエール兄弟がパリでシネマトグラフを一般有料公開。
1896年3月	稲畑が研究と機械設備購入のために渡仏した際にオーギュストから「動く写真を発明したから、是非一度見てくれ」 ²⁾ と誘いを受け、シネマトグラフに出会う。東洋におけるシネマトグラフの配給権を獲得する。
1897年1月下旬	稲畑はジレルと帰国。技術面で試写に苦戦するも、ついに1月下旬ごろ京都電燈の中庭(のちの立誠小学校敷地)で試写実験が成功。

試写の成功を受け新京極東向座にて関係者向け試写を行い、大阪・南地演舞場で有料一般公開、その後道頓堀の角座、新京極東向座と興行しました。稲畑は同じ留学生横田万寿之助の縁でその弟、横田永之助へ興行権を譲渡。横田は横田商会(のちに合併し日活に)を創設。芝居興行に詳しい千本座の座長・牧野省三をスカウトし、京都は映画の全盛期へと駒を進めたのでした。

*1 吉田喜重『映画伝来 シネマトグラフと〈明治の日本〉』岩波書店 1995

p.104, l.7-l.10

*2 稲畑勝太郎翁喜寿記念伝記編集会編『稲畑勝太郎君伝』稲畑勝太郎翁喜寿記念編集会 1938 p.296, l.5

【参考文献、「日本映画原点の地」を知る本】

『別冊太陽 京都映画百年記念—日本映画と京都』平凡社 1997

西川昭幸『日本映画—〇〇年史 明治・大正・昭和編』ごま書房新社 2016

吉田喜重『映画伝来—シネマトグラフと〈明治の日本〉』岩波書店 1995

鴫明浩& 京都キネマ探偵団編『京都映画図絵—日本映画は京都から始まった』フィルムアート社 1994

岩本憲児『光と影の世紀—映画史の風景』森話社 2006

蓮實重彦編『リュミエール元年—ガブリエル・ヴェールと映画の歴史』筑摩書房 1995



コーヒーは人と人をつなぐ



KYOTO'S COFFEE TIME



1世帯あたりの珈琲消費量が日本1という京都は、珈琲激戦区としてもホットで魅力的。珈琲は京都の文化を語る上で欠かせない、そして人と人をつなぐツールです。立誠図書館併設の

TRAVELING COFFEE では月替りで京都の焙煎所のシングルオリジンコーヒーを提供中です。こちらでは、そんな京都の珈琲屋さんに珈琲や本についておこたえいただきました。

※シングルオリジンコーヒーは時期により、メニュー内容が異なります。ご了承ください。

今号のピックアップ



KAeru coffee

住所：〒600-8191 京都市下京区高倉通五条下る堺町20番地 穂積ビル1F
連絡先：050-3135-6477 定休日：火曜日
営業時間：平日 7:30～18:00 土・日・祝日 9:00～18:00
URL：<https://kaeru-coffee.business.site>
instagram：@kaeru.coffee

KAeru coffee



▶今回おこたえいただいた方：小池 アキラさん



KAeru coffee



TRAVELING COFFEE 店主
牧野さんによる
オススメポイント

五条高倉に昨年オープンした自家焙煎のスペシャルティコーヒースタンド。喫茶店跡地を居心地の良い空間に変えバラエティに飛んだ豆の品種を緻密な計算で焼き上げていきます。



Q1 プロフィール

自家焙煎コーヒーのエスプレッソ、ラテ、ドリップコーヒーと、極力体に優しい素材を使った自家製の焼き菓子の店です。家にカエルのような感覚で立ち寄って頂ける空間を作りたいと思っています。



Q2 おすすめのメニュー

<エスプレッソ・イタリアーノ>

イタリア流の本格エスプレッソをレバー式のマシンで丁寧に抽出致します。ブラジルをベースにロブスタ種をブレンドしており、重厚な苦みと香りをお楽しみ頂けます。



Q3 あなたにとってコーヒーとは？

人と人をつなぐもの、自分と世界をつなげるもの。



Q4 お好きな本を1冊教えてください

『サピエンス全史(上、下) 文明の構造と人類の幸福』
著：ユヴァル・ノア・ハラリ 訳：柴田裕之
(人類の幸福とは何か考えさせられます)

・朗読ライブ in 立誠図書館 vol.2

日時：3月2日（土） 11：30 開演（12：30 終演予定）

内容：森 鴎外の『高瀬舟』を高瀬川のほとりで朗読します。

また、『外郎売』を参加者の方と一緒に朗読するワークショップも行います。**入場無料**。お気軽にお越しください。

ナビゲーター：稲葉 妙恵さん

主催：一般社団法人 文まち / しろうさぎのかぜ朗読教室

・絵本ライブ in 立誠図書館 vol.3

日時：3月12日（火）

11：30 開演（12：00 終演予定）

内容：絵本の読み聞かせ。絵本で人と人、心と心つながります。

入場無料。お気軽にお越しください。

ナビゲーター：森川 恵子さん 後藤 春美さん

主催：一般社団法人 文まち / 二条駅かわいいまちづくり実行委員会 / 中京区小学校ボランティアネットワーク

・谷このみのお絵かきの会

in 立誠図書館 vol.1

～きみのかおはどんなかお？～

日時：3月12日（火）

12：00 開演（13：00 終了予定）

内容：ペンや紙など様々なものを使って、かおを作ります。果たしてどんなかおが完成するのでしょうか！？

入場無料。お気軽にお越しください。

ナビゲーター：谷 このみさん



Photo by.Yuuichirou Tamura

募 集

・立誠図書館サポーターの募集中です！

皆さまからいただいた会費はすべて図書館の費用に充当させていただきます。

なお、ご加入いただいた方にはもちろん立誠図書館機関誌「Page.3」の送付（年3回予定）とオリジナルクリアファイル・しおりをプレゼントさせていただきます。また、公式サイトにて、サポーターとしてご登録いただいたお名前を掲載させていただきます。

個人サポーター：3,000 円 / 企業サポーター：50,000 円

年会費有効期限：2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日まで

サポーター会員希望の方：以下記載のメールまたはお電話にてお問い合わせください。

立誠図書館機関誌「Page.3」 で広告を出してみませんか？

2019 年度より「Page.3」で
は広告を募集いたします！

以下記載のメールまたはお電話にてどうぞ
お気軽にお問い合わせください。

「Page.3」とは

「Page.3」は人・本・地域をつなぐ立誠図書館の機関誌です。

「元京都市立・立誠小学校跡地活用計画」の合意によりホールや図書館、立誠ガーデンなどを備えた複合施設（2020 年完成予定）として生まれ変わることとなった立誠小学校。1928（昭和 3）年に開校し、1993（平成 5）年の閉校後も地元主催の行事や文化発信の場として、人と文化が集う場所として親しまれてきました。また、映画の原型である「シネマトグラフ」の日本初の試写実験が行われた映画と縁の深い地でもあります。

そんな立誠小学校のあゆみを本のページにみため、小学校時代を 1 ページ、閉校後を 2 ページ、新施設への転換期の現在を 3 ページとしました。立誠小学校の新たな 1 ページのはじまりにご期待ください！

開館時間：月曜日～日曜日 11：00～20：00

* 図書、雑誌、新聞の複写サービスは 11：00～19：00 まで
休館日：不定休

お問合せ：TEL：075-585-5561 FAX：075-585-5562

MAIL：info@bunmachi.org

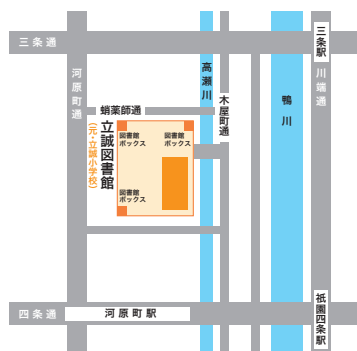
公式サイト：https://www.bunmachi.org

所在地：京都市中京区蛸薬師通河原町東入備前島町 310-2

アクセス：阪急電車「河原町駅」1 番出口より徒歩 3 分

京阪電車「祇園四条駅」4 番出口より徒歩 5 分

立誠図書館へのアクセス



立誠図書館

検索